

WEEKLY SIGNAL

平成27年3月27日(金) 1268号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	3/30(月)	3/31(火)	4/1(水)	4/2(木)	4/3(金)
無担保O/N	0.030% ~ 0.125%				
銀行券	+ 100	ト ン	+ 1,000	+ 1,000	+ 1,000
財政他	+ 10,100	+ 7,000	△ 3,000	+ 4,000	+ 3,000
資金需給	余 10,200	余 7,000	不 2,000	余 5,000	余 4,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 年度末諸払い	年度末諸払い		普通交付税 法人税・保険揚げ	
オペ期日	CP等買入 △ 700 貸出 △ 600 国債補完供給 + 100	共通担保(全店) △ 3,800			
オペスタート		国債買入 + 10,300 短国買入 + 7,500 CP等買入 + 6,000			
(日本)	鉱工業生産指数(2月)	日銀当面の長期国債買入の 運営について 毎月勤労統計(2月) 決済動向(2月) 住宅着工統計(2月)	日銀短観(3月調査)	日銀短観全容・ 「企業の物価見通し」概要 マネターベース(3月) 対外対内証券売買(前週分) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額	
(海外)	米 個人消費支出(2月) 米 フィッシャーFRB副議長講演	米 S&P/ケース・シラー住宅価格 指数(1月) 米 消費者信頼感指数(3月) 米 リッチモンド連銀総裁講演 米 アトランタ連銀総裁講演 欧 ユーロ圏失業率(2月) 欧 ユーロ圏消費者物価指数 (3月速報値)	米 ADP雇用統計(3月) 米 ISM製造業総合景況指数 (3月) 米 MBA住宅ローン申請指数 (前週分)	米 新規失業保険申請件数 (前週分) 米 イエレンFRB議長講演 米 貿易収支(2月)	米 ゲッド・フライデーのため祝日 株式市場休場、債券市 場は正午までの短縮取引 米 雇用統計(3月) 欧 祝日のため休場

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.080 ~ 0.120
SPOT 2M	0.117 ~ 0.125
SPOT 3M	0.118 ~ 0.135
SPOT 6M	0.130 ~ 0.160

<インターバンク>

今週の日銀当座預金残高は週初192兆円台から始まり、その後は日銀の国債・国庫短期証券買入オペ等の潤沢な資金供給により増加し、週末には197兆4,800億円となった。

無担保コールON物は先週と比較してやや地合いは弱まり、週を通して0.06%台で取引され、加重平均金利は0.064~0.067%で推移した。末初物は資金調達需要が弱く、目立った出合いは見られなかった。ターム物も同様に、期内物は1W物で0.11%台後半の出合いとなったものの、3月末越えとなる期間ではビッドが立たず、出合いは見られなかった。今週実施された国庫短期証券買入オペは先週実施分(20日オファー、1兆5,000億円、

応札額3兆6,308億円)から7,500億円減額の7,500億円でおファーされ、応札額は1兆8,300億円となった。来週の材料として国内では日銀短観(4月1日)、海外ではイエレンFRB議長講演(4月2日)、米雇用統計(4月3日)等が挙げられる。

【オープン市場】

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.075 ~ 0.085
TDB 3M	0.000 ~ 0.020
現先(on/1w)	0.070 ~ 0.09

<CP>

今週は、入札発行額は約11,600億円で、有利子負債削減の動きから、期落ち額約41,000億円(金融機関・ABCP除く)を大きく下回った。

今週の3M物の入札発行レートは、0.080%近辺~0.110%台前半と、玉不足感から低下した。

現先レートは、0.070%~0.090%程度で推移した。

来週の期落ち額は約2,300億円となっている。

<TDB>

26日に国庫短期証券3M第520回債の入札が行われたが、最高落札レートは0.0320%(前回債0.0080%)、平均落札レートは0.0164%(前回債0.0020%)と前回債から利回りは大きく上昇した。セカンダリーは3Mで0.018%近辺の出合い。6Mは△0.015%近辺の地合い、1Yは△0.015%近辺の地合いとなっている。来月2日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは週初0.07%近辺の出合から始まり、週央まで概ね0.055~0.075%のレンジで推移。26日には短国3M入札が行われたこともあり0.09%の出合まで上昇した。S/Nが月末初受渡となる週末には期末要因に加えて日銀の買入オペがオファーされたことも相俟って、マイナス圏での出合となり越週した。SCは10年334回債が0/N物・ターム物ともに週を通してネガティブレートで推移し、0/N物・ターム物ともに△0.15~△0.20%の出合。末初受渡となる週末には、多くの銘柄が日を通して0/N物・ターム物ともにネガティブレートでの出合となった。2年債は344・347・350回債、5年債は106・122回債、10年債は336・338回債、20年債は151回債に引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。